

私にも 言わせて! 第152回

公衆衛生医師という選択肢



茨城県ひたちなか保健所
所長

金本 真也

1992年筑波大学医学専門学群卒業。筑波大学附属病院で2年間の外科研修後、筑波大学医学医療系循環器外科に入局。小児心臓外科を専門として、神奈川県立こども医療センター、茨城県立こども病院、筑波大学附属病院で修練。2014年関西医科大学心臓血管外科診療教授(小児心臓外科)に就任。2022年茨城県ひたちなか保健所技佐、2023年現職に就任。

茨城県ひたちなか保健所所長の金本真也です。「期待の若手シリーズ 私にも言わせてー」に執筆する機会を頂き、深く感謝申し上げます。若手にはほど遠い年齢ですが、お許しを頂ければと思います。これまでの経歴と公衆衛生の道を選んだ理由、公衆衛生の面白さについて誌面で紹介できればと思います。何かのご参考になれば幸いです。

臨床医時代

埼玉県に生まれ、1992年に筑波大学医学専門学群を卒業しました。大学卒業後の進路は外科一択、その中でも心臓外科の世界に引かれて入局しました。

医師5年目、心臓外科医として3年目の1996年、幸運にも国内有数の小児病院である神奈川県立こども医療センター胸部外科に赴任する機会を頂き、小児心臓外科医としての修練が始まりました。その後、茨城県に戻り、水戸市の茨城県立こども病院に通算4年間

勤務した後に、2008年から筑波大学医学医療系循環器外科の講師に就任、大学病院で主に小児心臓外科の診療を担当しました。当時は働き方改革という概念はここにもなく、特に心臓外科の世界では、術後は主治医が泊まり込みで管理するのが当たり前という時代でした。われながらよく働いたと思います。

初の間西勤務、そして人生最大の転機

2014年7月に小児心臓外科担当の診療教授を公募していた大

間中は保健所業務を免除していただき、研修に専念することができました。埼玉県和光市の税務大学の隣に佇む科学院は、誰とはなしに「永平寺」と称された寄宿舎生活(水風呂による滝行の擬似体験付き)と相まって、公衆衛生の総本山のような厳かな雰囲気をもっていました。研修カリキュラムは、公衆衛生の各分野を体系的に学習できるように工夫されており、「とにかく面白い」の一言に尽きます。講義資料も豊富であり、現在でも時折参考にしています。最も貴重だったのは、公衆衛生を志して全国から集まった、経歴も年齢も異なる同期の方々と知り合ったことでした。皆さまありがとうございます。

科学院での研修終了後、保健所業務に復帰、2023年4月より茨城県ひたちなか保健所所長に任命され現在に至っております。保健所長として3年目となりますが、新型コロナウイルス感染症の5類移行、管内広域食中毒事案、DHEAT(災害時健康危機管理支援チーム)の災害派遣等、保健所長として経験を積んでいる最中です。

公衆衛生医師(保健所長)としての活動に関して

臨床医としての経歴が長く、まったく未経験の公衆衛生医師として行政で働くことに不安はありましたが、何とかあります(と自分では思っています)。保健所長職を含めた公衆衛生医師の存在意義について、私の考えを述べさせていただきます。

①行政組織内における医療職の存在価値

医師を例にすると、令和4年度の茨城県内医師総数6029名中、行政機関に従事する医師はわずか18人(0.3%)です。行政も医師会や管内医療機関との連携はありますが、日常診療で忙しい臨床系の医師に対して、行政側が気軽にコンサルテーションを実施するのは少々ハードルが高い印象を受けます。行政組織内で医学の専門的な知見を提供できる公衆衛生医師は貴重な存在です。

②臨床医としての経験が生きる

臨床医としての医学的な専門知識が役立つことはもちろんですが、臨床現場での活動経験は行政でも

阪府枚方市の関西医科大学に採用され就任しました。一から診療体制を立ち上げる必要があり、慣れない環境で苦労しながら大学病院の関連領域の皆さまと懸命に診療実績を積み上げていきました。

この間、小児心臓外科医の働き方に影響を及ぼす、4つの大きな出来事が徐々に進行していました。出生数の減少、新型コロナウイルス感染症の流行、小児心臓外科手術を行う施設集約化の方針、最後は2024年4月から導入された医師の働き方改革です。

このような環境の変化に加え、30年近く外科医として働いてきた「勤続疲労」も蓄積しており、ここであいつたん、メスを置いて新しい進路へ進むべく一大決心をしました。

公衆衛生医師の進路を選択

「勤務地は茨城県」これまでの知

役に立ちます。医療機関でも行政機関(保健所)でも、多職種の見を集約して、課題解決に向けて協働する過程に大差はありません。臨床でリーダーシップを発揮した経験は行政現場でも十分生かせます。

③危機管理能力

科学院での研修中に現役保健所長の方々の経験談を伺う機会がありました。ある所長の方がその仕事に関して「時に想定外の突発事案に対して臨機応変に対応する必要があり、外傷外科での現場に通ずるものがある」と表現されていました。臨床で発揮した突発事案への対応力や危機管理能力が意外と役に立つ場面があります。

④行政と医療の二刀流を生かした活動

行政と医療の二刀流を生かした活動ができるのも公衆衛生医師としての面白さでしょう。その活動範囲は広く、臨床医時代には想像もつかなかった方々と仕事ができることが魅力で、思いも寄らぬ経験ができます。例えば、DHEATは被災自治体の指揮調整機能を支援して、災害現場でDMAT(災害派

識と経験を生かせる分野」で「夜勤と当直はなし」「面白そう」という4条件を満たす進路を探していたところ、妻から「行政で働いてみたら?」という思いがけない提案がありました。行政で働く公衆衛生医師について資料を集め調べてみると、先述の条件に当てはまりそうでした。幸い、茨城県が公衆衛生医師を募集しており、ほぼ飛び込みのような形で応募し、幸運にも採用の運びとなりました。

公衆衛生の大海を知る

2022年4月、茨城県職員として茨城県ひたちなか保健所に配属されました。最初の仕事は保健所長資格の取得です。同年4月、国立保健医療科学院分割前期課程に入学、3か月間の集合とオンラインを組み合わせたハイブリッド研修が始まりました。幸い、研修期

遣医療チーム)等の医療チームと共に支援活動を実施します。行政と医療の橋渡し役としての調整力が問われる場面です。

公衆衛生の面白さ

科学院を修了して3年経過したのですが、今でも3か月間の研修が深く印象に残っています。医師として働く私の心に深く働き掛ける何かがあったのでしょうか。臨床医として、己の医学的知識と技術を総動員して病気を治す医療もありますが、一方で医学以外の方法論や価値観を導入して多面的にアプローチすることにより「生を衛る」公衆衛生という医療の世界もあります。科学院の研修を経て公衆衛生医師として働くことで、医師としての視野は広がったと感じています。

渋沢栄一の名言「四十、五十は流垂れ小僧、六十、七十は働き盛り、九十になって迎えが来たら、百まで待てと追い返せ」にあやかっ、あと何年働けるか分かりませんが、残りの医師人生を茨城県の医療に微力ながら貢献し、悔いなく過ごしたいと考えています。